
人類

武地

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

人類

【Nコード】

N0467F

【作者名】

武地

【あらすじ】

お隣りさんとの単なる世間話。変わったことと言えば…

玄関の前をホウキで掃除をしていると、お隣りさんが通り掛かった。ちょうど出勤時間らしく、時計を見ながら歩いている。こちらに気付いたらしく、軽く会釈をして挨拶をした。

「おはようございます。」

「どうもあー、おはようございますう。」

「朝から掃除なんて精がでますね。」

「いやあ、うちは主人が朝早いので、子供が学校に行くと暇になってしまうので、掃除くらいしかやる事がないんですよ。」

「それでも毎朝掃除していらっしゃるから蟻田さんの家の前はいつも綺麗だ。うちの家内にも見習ってもらいたいくらいですよ。」

「嫌だわあ、蟻村さんちの奥さんも頻繁に掃除してますわよう。」

それを聞くと蟻村はそうなんですか？というような表情を作り、改めて自分の家の前を見渡したが、蟻田の家の前と見比べるとどうにも掃除をしている感じがなかったので、うーん、と低い声を出して首を捻った。

「そつなのかなあ？」

「そうよう。今は確かに落ち葉が少しおちているけれど、ほら、この時期よく出てくる…」

そこまで聞くと、蝉村はあくそういえば、といった感じで目をパチパチしてみせた。

「そういえば家の周りではあまり見かけませんねえ。この時期になると木の上や土の中から人間が沸いて来ては車に惹かれたり通行人に踏み潰されたりして散らかっているのに。」

蟻田はでしよ、と言いたそうな顔で続けた。

「蝉村さんちの奥さん、結構頑張ってるんですよ。人間で潰れて放置しておく臭いがキツイじゃない？だからいつも潰れた人間をかき集めてすぐに燃やしてるんですから。結構体力使ってますよ、人間を処理するの。」

「そうなんですか、知らなかったです。」

「そうよう、子供が面白がって捕まえてきた人間同士を闘わせてバラバラになった人間だって片付けたり子供に消毒させたりしてくださってるんだから。うちの子供もよく蝉村さんちの奥さんに消毒して頂いてますし。」

「全然知りませんでした。いやあ、お恥ずかしい。」

「んもう、男は皆鈍いんだから。『主人は人間の死骸とか臭いが嫌いなんで』って言ってそりゃもう一生懸命…、蝉村さん、たまには奥さんにプレゼントでもあげたらどうです？きつと喜びますよ。」

「そうですねえ、少し考えてみます。」

「それがいいわ、うんうん、うちの主人にも何かおねだりしちゃうかしら。」

ははは、と蝉村が笑い、時間を確認して、

「では私はこれで…」

「あらやだ、すみませんねえ、つい話し込んでしまつて。」

イエイエ、とがぶりを振り、

「それでは。」と言って駅に向かった。

「頑張ってくださいねえ」と後ろから声がしたので、振り返り軽く頭を下げ、前に向き直った。

いつも通勤の時は一日の仕事の事しか頭にないのだが、今日は妻の事しか頭になかった。

あいつ、がんばってくれてるんだなあ、そんな事を思いながら、さっきの蟻田の言葉が頭をよぎった。

プレゼントか…なんて言つて渡そうかな…。

そんな事を考えながら、潰れた人間の脇を通り抜けて今日もまた朝のラッシュに紛れていった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0467f/>

人類

2010年10月10日16時35分発行